

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073600423		
法人名	医療法人 聖恵会		
事業所名	グループホーム安居 (安居)		
所在地	〒811-3105 福岡県古賀市鹿部485-1番地	092-942-6363	
自己評価作成日	平成24年 6月 8日	評価結果確定日	平成24年07月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホーム安居は、平成17年2月に開設し、8年目に入りました。「ぬくもりのある第二の我が家」を運営の基本方針に掲げ、認知症の方が、安心して暮らしていけるよう、職員一同支援しています。病院が敷地内に併設しており、開設当初より看取りケアを指針に盛り込んでおり、実際に1例の方の看取りケアをしました。ご本人が、「どうありがたいか」という思いと関わっていく中で、ご本人が満足されることが、職員のやりがいに繋がることを実感しました。ここからのニーズとして、看取りケアが高まっていくなか、最期まであきらめずに、ご本人の思いを大切に、ご希望を叶えられるホームでありたいと願っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5 - 27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年06月26日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に事業所理念を作り、毎朝の朝礼で唱和している。また、年間の教育計画の中で、振り返る時間を作り、職員間で共有し実践につなげる努力をしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの年間行事計画の中で、地域の公民館との活動や地域の保育園との交流をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が、民生委員より依頼を受け、定期的に地域の公民館に出向いて介護予防教室を開催している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し、利用者や行政、地域の区長、民生委員等で実際のサービスの取り組みについて評価やアドバイス等をもらい、サービスの向上を図っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、行政の担当者も参加してもらい、サービスの取り組みを伝えている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの年間教育計画で、毎年身体拘束についての勉強会を実施しており、職員全体で正しく理解する機会を作っている。玄関の施錠に関しては、ホームの近くに国道が通っており、危険防止のため止むなく施錠している。外出に関しては、職員が対応して比較的自由に楽しんで頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での年間教育計画で、毎年虐待についての勉強会を実施しており、職員全体で学ぶ機会を作っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度はホーム内での教育計画に数回取り上げる課題で、学ぶ機会には充分持たれている。個々に必要性が生じたら、活用できるよう資料もそろえている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、管理者から十分な説明を行い、不安や疑問点がないよう、納得してもらっている。改定時には、年間行事に合わせて家族に集まってもらい、家族会を開き、改定の内容説明を行っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き、意見や要望を出していただいている。また、ご家族への満足度アンケート調査で運営に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを開催し、職員がいろいろな意見を出せるようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し、資格の取得や講習会参加などには、勤務調整を行う等向上心を持って働けるようにしている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢などを理由に採用対象から排除されることはない。現職員の中に新卒の採用も入れながら、各々能力を発揮し、生き生きと就業できる環境を整備している		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間教育で人権の勉強会をしたり、資料を配布したりと学ぶ機会をもちながら取り組んでいる		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のケアに対して随時意見や指導を行っている。また、個々に合った研修会に参加できる機会を設けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内でのグループホームネットワークや福岡県グループホーム協議会に加入しており、定期的に勉強会、交流会など、いろんな職員が交代に参加し学び、質の向上に向けての取り組みがされている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを傾聴する機会を意識的に設け、安心、信頼できる関係作りに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会、ケアカンファレンスや電話など随時状況報告を密に行いながら、家族の思いを聞けるような関係を築いている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況把握し、その時必要な支援を見極めるトレーニングを行っている。支援の方法は一つでないことを職員共通で認識している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生きてこられた、これまでのバックグラウンドを尊重し共有する関係を保ち暮らしを共にしている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご本人と家族をつなぐ立場であることを意識し、絆を深めながら、共に支援している。また家族の協力が自然のうちに得られるよう配慮している		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人や家族の意向に沿いながら、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	さりげなく間に入り込む配慮を行い、ご利用者同士楽しく過ごせるよう支援している。共に支えあう関係を持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、ご家族が継続して事業所に関わりがもてるような雰囲気作りを行っている		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に日々努力しており、コミュニケーションがとりにくい方に対して、ご家族より情報を頂くなどして、本人本位を常に考え行動している		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時センター方式を用いて、情報を提供していただいたり、面会時を利用し会話する機会を増やしたり、これまでの過ごし方などを把握するよう努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりを通し、過ごし方や出来ることなどを把握している。職員同士の申し送りや記録からも把握に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時や状態の変化に応じ、プランを見直し、話し合いを行いながら意見を反映させ、常に現状に即した介護計画を作成している		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録やケアの実施をチェック表で管理し、毎月評価を行い、結果・気づきなどの情報を共有して介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、日々変化する生活に沿って、その時々々のニーズに対応し、プランの変更や支援に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区公民館での活動や保育園児との交流会・ボランティアによる催事、中・高生の体験学習なども取り入れるなど、心身共に自分の力を発揮し、楽しく暮らしていけるよう支援している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得ながら、かかりつけ医・専門医の受診ができています。必要時は、職員が付き添い、かかりつけ医・専門医受診の支援をしている		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の生活の中で得た情報を看護職員に伝え相談を行い、個々の健康管理の支援を行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、医療機関と情報交換や相談に努め、連絡を密に取るなど関係作りを行っている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、早期に本人家族と話し合い、その後も状況に応じて数回話し合いを重ね、その度に全職員へ方針を伝達し共有している。その方針に沿って支援を統一している		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急・急変時のマニュアルに沿い対応を行っている。振り返りを次へ活かす実践力を身に付けている。定期的に消防署の協力を得て、救急救命のトレーニングを受けている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災講習会に参加したり、非難訓練を実施し対応や手順誘導時の留意点の見直しや再確認を行っている。関係機関や地域との協力体制も築いている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーに配慮した対応を行っている。接遇マナー研修会に参加した資料を配布し全体で勉強会を設けるなど、意識を高め言葉かけの改善を行ったりしている		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し受容するなど関わりを深めることで、思いを表出し、自己決定ができるように働きかけをしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活暦や情報に沿い、日々の関わりを通して一人ひとりのペースを把握しながら支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせ洋服を選んだり、ネイルを楽しんでいただいたり、なじみのある髪型など、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎやランチョンマット敷き、玉ねぎの皮むき、また出来る方には配膳までお手伝いして頂きご利用者と職員と一緒に準備や片付けを行い、大家族のような空気を感じて頂けている		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立で、バランスの取れた食事を提供し、食事・水分摂取量を随時確認し、必要量の確保ができるよう支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに必ず付き添い、出来ることの見守り、出来ないところの支援をし、清潔保持を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間毎のさりげない誘導でトイレでの排泄や排泄の自立が維持できるよう支援している		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を把握して、個々に歩くことや、腹部マッサージを行う等取り組んでいる		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分よく入浴していただけるようタイミングを図り支援している。時間などは一人ひとりのご希望に沿うよう努めている		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、個々の習慣や身体状況にあわせて居室で足を伸ばしゆっくりと休息の時間を取っていただくよう支援している。日中は、軽体操を行ったり、散歩して外気に触れるなど、安眠できるよう工夫している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	二人で声出し確認を行い安全な服薬支援を行っている。個々の薬を理解し症状の変化を注意深く確認・報告を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームの生活の中で確認できた持てる力を活かし、それぞれ得意とするところで、力を発揮して頂くことで、張りのある生活と生きる喜びを感じて頂いている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭やホーム付近の散歩は、希望に沿い、いつでも、できるよう支援している。外食会や季節ごとのお花見などご家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで不穩になられたりすることもあり、基本所持されていない。必要な場合は、預かり金のから支出できるようになっている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙の受け取り、電話の受信又ご本人からの手紙、電話の配信には、職員が間接的に携わり援助している		
54	2 2	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間において、温度調節、臭いに対する換気など配慮を行っている。生活感、季節感の工夫は、出来るだけ利用者様参加型の活動として取り入れ、今が何月なのか解って頂けるような空間づくりをしている		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、いろんな所に椅子が設置され、場所の固定はせず、個々がその日の気分で好きな所で思い思いに過ごすことができる。相性の良くない方々への支援も工夫している		
56	2 3	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテーブル・椅子・タンスなど置かれ、またご家族との思い出の写真・プレゼントなど家族と相談しながら、居心地よく過ごせるよう支援している		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは、当然の事、リビング・廊下・トイレなど手すりを備えており廊下も広くなり安全面にも十分な配慮を行い、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している		